

平成29年度 事務事業マネジメントシート

事業名	学校図書館教育推進事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	03	3節	学び、受け継がれ、進展する流山（教育・文化の充実向上）	主管課	学校教育課			
施策	3-2	個性を生かす教育環境の基盤充実		主管課長	遠藤 由樹			

事務事業の目的・内容

事業目的	対象	児童・生徒	意図	小中学校図書館の一層の充実を図る。
事業内容	学校図書標準基準に達していない小中学校図書館の図書及び図書館整備品を購入する。			
事業開始から現在までの状況変化	平成25年から始めた事業である。平成30年度から所管部署を指導課へ移管しました。			

事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		未達成校数	6	5	5	校	↓↓↓
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						国の基準蔵書冊数は、学級数が増えるたびに基準値が増えるので、学級数の増減により達成状況が変わる。
	事務事業のコスト						
事務事業の総コスト(a=b+c)		平成27年度	平成28年度	平成29年度			
事業費(b)(円)		3,882,016	3,715,904	3,677,649			
うち一般財源		1,999,516	1,999,654	1,999,649			
職員給与費(c)(円)		1,882,500	1,716,250	1,678,000			
人役・職員(人)		0.25	0.25	0.25			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 < 主管課長記入 >

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	B 達成できなかった
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

今年度(H29)の改善計画	児童生徒数の増加に伴う学級増の現状の中で、標準基準の達成の把握を行い、経費の適正な執行を図る。	取組の課題	図書の老朽化等による新旧の入れ替えが必要となってくる中で、教科指導と連携した図書館運営のための予算執行が求められている。
今年度(H29)に実施した取組	学級数の増加に伴う基準未達成校を確認して優先順位を把握し、継続的に事業を実施した。	今後(H30以降)の改善計画	教科指導等と連携した、学校図書館教育を推進するために、事業の所管部署を指導課に移管する。